

ウガ ソウガモンの秘宝を探せ!

私は宝を求めて世界中を旅しているインディタカハシだ。私は遂に手に入れたのだ。あのすごく有名なソウガモン王が残した宝の地図だ。この地図を手に入れるのに、何度も命を落としかけたことか。「私は必ず手に入れる！あの有名なソウガモン王の宝を！」そんな決意を胸にガイドを雇うべく「おなかが村」に向かうのであった。しかし、道中にこんな数々の試練が待ち受けていたとは、まだ知る由もない私であった。

オアシスすいた村

ここはなんて快適なところなんだ。水を奪い合ったガイドとも仲直りをし、羊の丸焼きにかぶりつく。しばし休憩だ。秘宝はこの村の南、針のような険しい山「ハラペコ山」の麓にあるらしい。あともう少しだ。もう目の前まで来ているのだ。

3回目 修正の説明

装丁制作に入っていた宮川先生から連絡があり、太陽を付け足したいとの事。顔のついた赤い太陽を描く。そういえば今まで太陽は描いたことがなかったなあ。これで完成。最後の制作でした。

試験その3

暑い！肌が焦げるほど熱さだ！！

ここは灼熱の砂漠。植物も生えておらず世界はカラカラだ。もう水も無い。この絶望的な状況に、容赦無く太陽は熱を浴びせてくる。「そうだ、私の情熱もあの太陽に負けていない！」ガイドと水を奪い合い、蹴落とされ、踏みつけられ、私はそれでも前に進むのであった。

ハラペコ山

麓には洞窟があった。両側に怪しげな巨大な像が「入るな」と睨むように立っている。私は恐れる事なくその洞窟の中へ進んで行くのであった。果たしてソウガモンの秘宝とは何なのか？そして手に入れる事が出来たのか？それはまた、別のお話で…。

2回目 修正の説明

既に講義は終わり、個別に先生とメールにて課題制作を進める。表4のイラストを提出したが「予定調和すぎる。破綻が欲しい。」との指摘。極寒地の探検から帰ってきた様な服・装備に変更した。確かに普段の仕事でも、制作途中は制作前に練ったアイディアを上手く「まとめよう、まとめよう」としていた様に思う。さらに飛んだアイディアを付け足して壊してしまう、そんな作業が私には必要だったのでしょう。

試験その1

寒いぞ！ 寒すぎるぞお～！！

ここは世界の屋根「ヒマダガヤ」。「おなかが村」に行くには、ここを通らなければならない。肌を刺す冷気、暴力的な吹雪が私を襲う。ああ～もう眠い。ん？ あれは人か？いや伝説のイエティ（雪男）だ。「冒険など止めて、ゆっくりテレビでも見ようよ。」しかし私はこんな所でグズグズしている訳にはいかない。

1回目 修正の説明

「おなかがすいたハラペコだ。（椎名誠）」を読んで、初めて提出したイラスト。宮川先生には「構図は良いが色が寒いな。」とダメ出し。いくつかのアイテムを暖色系に、背景色を温かみのある色に変更しました。

おなかが村

私は何とかイエティのお誘いを乗り越え「おなかが村」に到着した。早速ガイドを探し、さらに奥地の村「すいた村」に向かわなければならない。しかし、ビール片手に「ワニを食った。サルを食った。タマネギが好きだ。」などと話していた面白い冒險家が居たが、あれは一体誰だったのだろうか。